

## ◇◇◇ 大気中の温室効果ガス濃度、過去最高の水準に

### ～WMO温室効果ガス年報第3号の発行～

11月23日（金）、世界気象機関（WMO）により温室効果ガス年報（Greenhouse Gas Bulletin）第3号が発表され、2006年の世界の二酸化炭素、一酸化二窒素、メタンの大気中の平均濃度は、過去最高水準となっていることが報告されました。

WMOは、世界中で観測される温室効果ガスの濃度を毎年取りまとめ、温室効果ガス年報として発表しています。気象庁は、WMOの温室効果ガス世界資料センター（World Data Centre for Greenhouse Gases：WDCGG）を運営して世界中の観測データを収集、解析し、その結果が温室効果ガス年報に反映されています。この年報第3号によれば、世界の二酸化炭素および一酸化二窒素の平均濃度は引き続き増加しており、これまでの最高となった。また、二酸化炭素は最近増加傾向が強まっていること、メタンについては増加が頭打ちになりつつあるもののその濃度は依然として過去最高水準にあることなどがわかったとしています。

この年報第3号は気候変動枠組み条約第13回締約国会議（COP13）および京都議定書第3回締約国会合（MOP3）（12月3日～14日、インドネシア・バリ開催）において配布されるとのことです。

世界の温室効果ガスの状況

	二酸化炭素 (ppm)	メタン (ppb)	一酸化二窒素 (ppb)
2006年平均濃度	381.2	1782	320.1
前年との差 (2005年平均濃度)	+2.0 (379.2)	-1 (1783)	+0.8 (319.3)
最近10年間の平均年増加量	1.93	2.4	0.76
工業化時代以前の濃度との比 (工業化時代以前の濃度)	136% (約280)	255% (約700)	119% (約270)

ppm： part per million （100万分の1を表す単位）

ppb： part per billion （10億分の1を表す単位）

（温室効果ガスの場合は、濃度を体積比で表示）

詳細は、気象庁ホームページ（<http://www.jma.go.jp>）上の報道発表資料をご覧ください。

[http://www.jma.go.jp/jma/press/0711/23a/C02\\_conc1123.html](http://www.jma.go.jp/jma/press/0711/23a/C02_conc1123.html)